新路面電車「LRT」

「街再生へ　新路面電車」という記事は、昨年 12 月 9 日の中日新聞の夕刊による。いま「LRT」(ライト・レール・トランジット)と呼ばれる新世代型の路面電車が注目を集めている。写真の上は、昨年から岡山市内を走っている超低床の LRT「MOMO」である。下の写真は 5 年後の実用化を目標にして、鉄道総合技術研究所で開発されている「架線レスバッテリートラム」である。

街再生へ 新路面電車

超低床、環境にも優しく

LRT は 1980 年代頃から欧米で広がり、街の活性化に大きな役割を果たしてきた。LRT の活躍ぶりについては、宇都宮浄人『路面電車ルネッサンス』(03 年、新潮新書)で詳しく紹介されている。郷愁を誘うかつての「チンチン電車」ではなく、路面電車新時代の到来である。LRT は都市再生の切り札となっている。また「LRT のある風景にようこそ!」というサイトにも、ヨーロッパ各地の LRT の写真が掲載されている。

先月、BS ハイビジョンで LRT の特集が放映されていた。オランダのアムステルダムとドイツのフライブルクなどがとりあげられ、LRT が美しい街並みとうまく調和していたのが印象的であった。現代都市問題の講義で早速これを使わせてもらった。学生の評価は高く、観光だけでなく街再生の手段として、LRT の積極的な活用を求める意見が多かった。ただし、アムステルダムなどは街がきれいなので、LRT も映えるのでないか、という意見もあった。日本の街に LRT はうまく調和するであろうか。景観・アメニティの問題である。

日本の都市でも「くるま社会」からの転換は焦眉の課題だ。そのためにも高コストの地下鉄やリニアなどの新交通システムではなく、LRT の活用が求められるのではないか。LRT は地下鉄の 10 分の 1 の建設コストという。広い道路をもつ名古屋などは、地下鉄延伸を続けるのではなく、LRT を軸にした街再生を展望してはどうだろうか。

(2 月 11 日　記)